

『トライ&チャレンジ』

Try & Challenge

No. **37** 号

今号は・・・

- ・オンラインタウンミーティング開始のご報告
- ・タウンミーティングに参加して
- ・タウンミーティングで司会を担当
- ・東京オリンピックとの開催で私たちが学ぶべきこと

緊急事態宣言の度重なる発令に、私たちはだいぶマヒしているのかもしれませんが。日々増え続ける感染者の数と、進まないワクチン接種に立ちを覚えても、自分たちでできること（密を避け、手洗いうがいをし、マスク着用、外出の制限等）をこなすのみですが、それでも生活は続きます。私たちも活動を止めないために、新しい形の交流会を始めました。

オンラインタウンミーティングははじめました

今まで年数回行ってきた白川議員のタウンミーティングがコロナ禍で中断していましたが、6月より、オンラインでの開催を始めました。オンラインということで会場にお集まりいただく必要がなく、パソコン、タブレット、スマートフォンと様々なツールを使ってご参加いただけるということで、毎月行っております。対面ではない集会は私たちも初めてで、本当にちゃんと話せるだろうか、そもそも参加される方はいらっしゃるだろうか・・・と不安でしたが、今までもご参加いただいていた方に加え、新しい方も増え始めたことに安心しております。



質問の内容も多岐にわたります。越谷市での生活で疑問に思うことや困りごとでは、「陳情」を受けるという形ではなく、一緒になぜそうになっているのか、私たちはそれに対してどう行動していけばよいのかという話し合いになります。白川議員の考えるこれからの越谷市とは？や、日本中の議会の中で、越谷市議会はどういったことが特徴的なのか、というような質問に対して白川議員が率直に意見を述べるような場面もあります。またなんとんでも、「どんな食べ物が好きですか？」や、「議会がない時、何をしているのですか？」といったプライベートな話は、普通のタウンミーティングではなかなか話題に上らないことです。オンラインという物理的な距離はあっても、参加された皆さんとの心の距離はぐっと縮まって、楽しい時間になっていると思います。また、今までのタウンミーティングの様子をYoutubeで配信しておりますので、ご興味ある方はぜひご覧ください。



6月のタウンミーティング



7月のタウンミーティング

※Zoom というオンラインミーティングのサービスを使っていますが、参加してみたいけれど難しい・・・と感じていらっしゃる方には個別にご説明をさせていただきますので、お気軽に担当（070-5542-0443 吉田）までご連絡ください

タウンミーティングに参加して

「**駅**頭で父に似ている市議の人が、市政レポートを静かに配っている。」それがここ 10 数年の白川さんのイメージでした。今春大袋駅の愚痴を Twitter に書いたら、オスメのツイートで白川さんのアカウントが出てきて、それとなくフォロー。そこから流れてきたタウンミーティングの情報。「白川ひでつづくに質問してみたら全部答えてくれて意外と面白かった件について」という、白川さん世代っぽくないサブタイトルに驚き、どこまで答えてくれるのか試す思いで参加しました。

結果、本当に全部答えてくれました!日本の政治家は質問にマトモに答えない人ばかりでイライラしているところに、答えづらいことでも回答して下さる白川さんの姿に感動すら覚えました。質問ですぐ解決できない問題は理由を丁寧に語り、普段の生活で困ったことを数人でもいいから共有して市に話してみることから始めてみては?という提案。越谷市の南北の発展の格差の歴史の詳細な解説などなど。語り口は穏やかなのに、話し合いで市民の生活を向上したいという白川さんの熱い想いが感じられた時間でした。

越谷市在住 40代 保育士 女性

タウンミーティングで司会を担当

7月のタウンミーティングにおいて司会を務めさせていただきました保科と申します。現在、他の地域で議員の SNS 運営をサポートするようなことをしており、縁あって白川さんのタウンミーティングにも関わらせていただきました。市議会議員の仕事について様々な角度からの質問が飛び交い、延長戦も含めた 1 時間半はあっという間でした。コロナ禍によって初めて ZOOM というものを知ったという方も多くおられるかと思いますが、このようなツールの一般化によって自宅から様々なイベントに参加することが当たり前になってきたことは、「政治家との集まり」というちょっと近寄りがたいイベントへのハードルを下げてくれるチャンスの到来であろうと前向きに捉えています。もちろん対面で話し合う方が良いという面は多くあるでしょうが、オンラインだから気軽に参加できた!という方もきっといらっしゃるかと思います。今後のミーティングへの参加を迷われている皆様、是非気軽に参加してみてください!

沖縄県在住 大学2年生 保科 大喜

東京オリンピックとの開催で私たちが学ぶべきこと

今回のオリンピックはコロナ禍にも関わらず、選手やボランティアの方々は大変な思いをされていたと思います。お疲れさまでしたと申し上げたいです。この文章を書いている時点ではまだパラリンピック大会が残っています。しかしながら、今回の東京オリンピックって何だったのだろうかと考えさせられます。つまるところ、オリンピックは日本にとってはただの政治の道具で、ごく一部の人間だけが恩恵にあずかった私物化されたものにしか見えませんでした。そして、招致決定から約 8 年かかっていますが、大会期間中を一炊の夢のような宴に興じた自分たち日本人の姿です。引き換えに残ったのは莫大な赤字とコロナの感染拡大です。他の政策にあるいはコロナ対策に使えたと思われる税金や借金です。それで明らかになったのは 100C のどうしようもない体質、それに馴れ合う政治家やマスコミも含めた大企業でした。オリンピック精神からかけ離れた人々だということも、わかりました。

問題はこの宴の後始末をどうやって進めていくのかということです。まずは様々な辞任劇で見られた人権に無自覚な体質です。昭和の価値観で、権力もお金も握り、上から目線で人を人とも思わない人たちがどう変えていくのかが問われています。今年の総選挙や地元の市長選挙で活かせるかという発想が必要です。それには自分たちも変わっていき、変え方を学んでいかなければと思います。そして、残された赤字をどう返していくのか、試行錯誤を繰り返していく、そういうことを認め合えるようになる社会にしていくのだと感じました。

越谷市在住 42歳 契約社員